

文部科学大臣奨励賞

## 目と目でおはなし

茨城県 千代川村立宗道小学校二年 小堀 友里亜

さっちゃんは、とっても目が大きくて、かわいい女の子です。わたしの弟とおなじ四さいです。

でも、さっちゃんは、おはなしすることができません。お母さんのおなかの中にいるとき、びょう気になって、生まれたときから、耳がきこえないからです。

だから、わたしが、さっちゃんに

「いっしょに、あそぼう。」  
と、言っても、さっちゃんは、へんじをしてくれません。

ようちえんでならった手わをつかって、さっちゃんにはなしかけました。

でも、さっちゃんは、わたしの手をじっと見ているだけです。

「さっちゃんは、まだ手わができないのよ。」  
さっちゃんのおばあちゃんが教えてくれました。さっちゃんのちかくのようちえんでは、手わを教えてくださいなので、さっちゃんは、手わをおべんきようするろう学校に入学するまで、手わがわからないそうです。

わたしは、耳がぶじゆうな人は、みんな手わをしっていると思っていました。

だから、学校に行って、手わをおべんきようすると聞いて、びっくりしました。わたしが学校で、かん字をならって、一つ一つおぼえるのとおなじです。大へんなんだなあと、思いました。

さっちゃんが、一年生になるまで、あそべないんだと考えていたとき、わたしのよこでさっちゃんとわたしの弟が楽しそうに遊んでいました。

「え？何で、いっしょにあそんでいるの。」

「おっちゃん、目をよく見てごらん。うれしいときは、目がにこにこして、かなしいときは、さびしい目をしているよ。おはなしや手わがで

きなくても、目と目でおはなしができるんだ

ね。」

わたしのお母さんがいました。

弟とつみ木であそんでるさっちゃんの目は、キラキラしています。弟がつみ木をたおしてしまつと、さっちゃんの目はつり上がってねこのようです。

わたしは、かんどうしました。だって、字がかけなくても、手わができなくても、わたしの目とさっちゃんの目で、おはなしができるからです。

わたしは、うれしくなって、さっちゃんの手をつないで、学校でならった「さんぽ」のうたをうたいました。さっちゃんもわたしの目を見ながら、げん気に足ぶみしていました。

こんどあそぶときは、おり紙を覚えてあげようと思います。そして、わたしは、さっちゃんに手わを教えてもらって、耳が聞こえない子とも、目と目でおはなしできるようちえんの先生になりたいと思います。

